

2 自宅通い／下宿を決定する理由

尾久土 遼子

はじめに

私は大学生が自宅通いか下宿かを決定する背景には何があるのかをこれから分析していきたいと思っている。そのきっかけとなったのは、私は現在下宿（一人暮らし）をしているのだが、私の周りの友人やサークルの先輩・後輩を見ていると、現役生は自宅通いが多いと感じたことからだった。これは、私の周りに限らないことであるかもしれない。

そこで、2009年の社会学部卒業生によるアンケートを用いて、自宅通いか下宿かを決める背景には何があるのかを分析していくことにする。

2.1 現役生と浪人生の自宅か下宿の違いと高校の所在地

冒頭でも述べたように現役生と浪人生では自宅通いか下宿かに差があるのか、これを調べるために、まずはじめに、現役生と浪人生の自宅か下宿の違いを、クロス集計を用いて分析していくことにする。

q5[現役・浪人の別] と q18[自宅・下宿の別] のクロス表

			q18[自宅・下宿の別]		合計
			自宅	下宿	
q5[現役・浪人の別]	現役	度数	158	100	258
		q5[現役・浪人の別]の %	61.2%	38.8%	100.0%
	浪人	度数	48	72	120
		q5[現役・浪人の別]の %	40.0%	60.0%	100.0%
合計		度数	206	172	378
		q5[現役・浪人の別]の %	54.5%	45.5%	100.0%

p<.001

このクロス表を見てみると、現役生は自宅の割合が高く、61.2%が自宅で38.8%が下宿であった。その一方で浪人生は下宿の割合が高く、40.0%が自宅で60%が下宿であった。

それでは、次に彼らの出身地は具体的にどこであるのか。自宅通いなら当然近畿地方出身者が多いはずである。卒業アンケートでは出身地の質問がなかったため、高校の所在地という質問からおおよその出身地が

わかると考え、これを用いた。下の表は、現役と浪人と地方別に分けた高校の所在地のクロス表である。

		q5[現役・浪人の別]			
		現役	浪人	合計	
高校の地方	東京	度数	2	3	5
		高校の地方 の %	40.0%	60.0%	100.0%
中部以東		度数	34	21	55
		高校の地方 の %	61.8%	38.2%	100.0%
京滋奈		度数	91	15	106
		高校の地方 の %	85.8%	14.2%	100.0%
阪兵和		度数	99	51	150
		高校の地方 の %	66.0%	34.0%	100.0%
中国以西		度数	31	32	63
		高校の地方 の %	49.2%	50.8%	100.0%
外国		度数	2	0	2
		高校の地方 の %	100.0%	.0%	100.0%
合計		度数	259	122	381
		高校の地方 の %	68.0%	32.0%	100.0%

p<.001

このクロス表から、現役生は圧倒的に近畿地方の中でも京滋奈3県出身者が多いことがわかる。一方で、浪人生は中国四国地方以西の西日本に多い。ここに自宅・下宿の変数をプラスして集計する(211ページ)と、同じ、近畿地方出身の学生の場合は、自宅生であろうと下宿生であろうと、現役と浪人の比率はあまり変わらないが、やはり、その他の地方、特に西日本出身の学生たちは浪人の比率が高いことがわかる。したがって、自宅か下宿かというよりも、近畿以外の地方から入学した学生たちの浪人率は高いということがわかる。

以上から、現役生で自宅通いが多かったのは、高校で志望校を考える際に、浪人生と比べると自宅から通える範囲で大学を選んでいる確率が高いためではないだろうか。そして浪人生の下宿の割合が高かったのは、浪人をして、自分が志望する大学の選択肢が広がったため、自宅から通えない大学でも受験する人が多いのだと思う。

また、下宿生でも、近畿地方出身者の場合、大阪府や兵庫県や和歌山県からが多かったのは、大阪南部や兵庫県西部などの自宅から通えない地域の出身者がいるためではないかと考えられる。京都の高校出身の学生はほとんどが自宅通いであるが、これは同志社大学が京都に立地しているため当然の結果だろう。

高校の地方 と q5[現役・浪人の別] と q18[自宅・下宿の別] のクロス表

q18[自宅・下宿の別]			q5[現役・浪人の別]				
			現役	浪人	合計		
自宅	高校の地方	中部以東	度数	4	0	4	
			高校の地方 の %	100.0%	.0%	100.0%	
	京滋奈	度数	82	13	95		
		高校の地方 の %	86.3%	13.7%	100.0%		
	阪兵和	度数	68	34	102		
		高校の地方 の %	66.7%	33.3%	100.0%		
	中国以西	度数	2	1	3		
		高校の地方 の %	66.7%	33.3%	100.0%		
	外国	度数	1	0	1		
		高校の地方 の %	100.0%	.0%	100.0%		
	合計		度数	157	48	205	
			高校の地方 の %	76.6%	23.4%	100.0%	
	下宿	高校の地方	東京	度数	2	3	5
				高校の地方 の %	40.0%	60.0%	100.0%
中部以東		度数	30	21	51		
		高校の地方 の %	58.8%	41.2%	100.0%		
京滋奈		度数	6	2	8		
		高校の地方 の %	75.0%	25.0%	100.0%		
阪兵和		度数	31	16	47		
		高校の地方 の %	66.0%	34.0%	100.0%		
中国以西		度数	29	30	59		
		高校の地方 の %	49.2%	50.8%	100.0%		
外国		度数	1	0	1		
		高校の地方 の %	100.0%	.0%	100.0%		
合計		度数	99	72	171		
		高校の地方 の %	57.9%	42.1%	100.0%		

自宅生のみ p<.015

2.2 自宅・下宿別と内部生の割合

次に、前節の考察以外に、現役生の自宅通いが多いのは内部生が含まれていることも原因のひとつではないかと思われる。そこで、入試形態別に自宅生か下宿生かの分布をみよう。

q6[入試の種類] と q18[自宅・下宿の別] のクロス表

			q18[自宅・下宿の別]		合計
			自宅	下宿	
q6[入試の種類]	一般入試・センタ	度数	133	145	278
	一利用入試	q6[入試の種類] の %	47.8%	52.2%	100.0%
	推薦入試・AO入試	度数	13	21	34
		q6[入試の種類] の %	38.2%	61.8%	100.0%
	内部校推薦	度数	60	6	66
		q6[入試の種類] の %	90.9%	9.1%	100.0%
合計		度数	206	172	378
		q6[入試の種類] の %	54.5%	45.5%	100.0%

p<.001

このクロス表から、内部校推薦で自宅通いの割合は 90.9%で、圧倒的に自宅通いが多いことが分かった。一般入試などいわゆる外部生の自宅・下宿別では下宿生の割合が高いことから、現役生に自宅通いが多いのは内部生が含まれていることが 1つの原因であると考えられる。

2.3 志望度は関係しているのか

次に分析したいのは、同志社大学の志望度と自宅通いか下宿かの関係である。

q4[志望順位] と q18[自宅・下宿の別] のクロス表

			q18[自宅・下宿の別]		合計
			自宅	下宿	
q4[志望順位]	第一志望	度数	143	95	238
		q4[志望順位] の %	60.1%	39.9%	100.0%
	第一志望以外	度数	66	88	154
		q4[志望順位] の %	42.9%	57.1%	100.0%
合計		度数	209	183	392
		q4[志望順位] の %	53.3%	46.7%	100.0%

p<.001

このクロス集計表から、第一志望であれば自宅通いが 60.1%であったが、第一志望でなければ自宅通いが 42.9%、下宿が 57.1%となり、自宅・下宿の割合が逆転する。しかし、前節でも述べたように、ここには内部が 16.7%含まれていることを忘れてはいけない。内部生はほとんどが同志社大学に入学するため、第一志望であるのは当然である。これは次の入試の種類と、志望順位のクロス集計表を見ても明らかである。

q6[入試の種類] と q4[志望順位] のクロス表

		q4[志望順位]		合計
		第一志望	第一志望以外	
q6[入試の種類]	一般入試・センター利用入試	133	149	282
	q6[入試の種類] の %	47.2%	52.8%	100.0%
	推薦入試・AO入試	31	3	34
	q6[入試の種類] の %	91.2%	8.8%	100.0%
	内部校推薦	64	2	66
	q6[入試の種類] の %	97.0%	3.0%	100.0%
合計	度数	228	154	382
	q6[入試の種類] の %	59.7%	40.3%	100.0%

p<.001

内部生は 97.0%が第一志望である。それに対し、一般入試・センター入試などのいわゆる外部生の志望順位の割合は約半分ずつである。次に、このクロス集計表に自宅通いか下宿かという変数をプラスして分析してみる。(214 ページの表を参照。)

ここで内部生を除いて、外部生に限ってみてみると、自宅通いか下宿かの割合は第一志望でもそうでなくてもあまり変わらなかった。したがって、全体で見ると第一志望であれば自宅通いの割合が高いが、内部生を除くと第一志望であってもそうでなくても自宅通いか下宿かは関係がないことが分かった。

以上より最初に第一志望の方が、自宅通いが多いという結果が出たのは、自宅通いの多い内部生が含まれているからだと考えられる。そのため、自宅通いか下宿かを決めるのに志望度は関係ないといえる。さらに、ここでも内部生が大きく関係しているということが分かった。

q4[志望順位] と q18[自宅・下宿の別] と q6[入試の種類] のクロス表

q6[入試の種類]				q18[自宅・下宿の別]		
				自宅	下宿	合計
一般入 試・セン ター利用 入試	q4[志望順位]	第一志望	度数	70	61	131
			q4[志望順位] の %	53.4%	46.6%	100.0%
		第一志望以外	度数	63	84	147
			q4[志望順位] の %	42.9%	57.1%	100.0%
	合計		度数	133	145	278
			q4[志望順位] の %	47.8%	52.2%	100.0%
推薦入 試・AO 入試	q4[志望順位]	第一志望	度数	12	19	31
			q4[志望順位] の %	38.7%	61.3%	100.0%
		第一志望以外	度数	1	2	3
			q4[志望順位] の %	33.3%	66.7%	100.0%
	合計		度数	13	21	34
			q4[志望順位] の %	38.2%	61.8%	100.0%
内部校推 薦	q4[志望順位]	第一志望	度数	57	6	63
			q4[志望順位] の %	90.5%	9.5%	100.0%
		第一志望以外	度数	2	0	2
			q4[志望順位] の %	100.0%	.0%	100.0%
	合計		度数	59	6	65
			q4[志望順位] の %	90.8%	9.2%	100.0%

一般入試・センター利用入試のみ p<.05

2.4 経済状況は関係しているのか

次に、家の経済状況によって自宅通いと下宿の選択に関係はあるのかを分析していきたい。ここでは18歳当時の家の経済状態と自宅・下宿別のクロス集計表を用いた。(215 ページの上の表を参照。)

その結果、自宅通いと下宿の経済状況はパーセンテージで見てもほとんど変わらないことがわかった。

また、内部生か外部生では経済状況が違うのかをしてみることにした(215ページの下の方の表を参照。)内部生は「豊か」と「やや豊か」をあわせるとが58.2%にものぼった。一方で外部生は「ふつう」と答える人が多く(「豊か」と「やや豊か」をあわせても31.3%)、高校(または中学)から私立学校に通うには、やはり家の経済状況が豊かでなければならないのだろう。

q11[18歳当時の家の経済状態] と q18[自宅・下宿の別] のクロス表

			q18[自宅・下宿の別]		合計
			自宅	下宿	
q11[18歳当時の家の経済状態]	豊か	度数	12	10	22
		q11[18歳当時の家の経済状態] の %	54.5%	45.5%	100.0%
	やや豊か	度数	66	56	122
		q11[18歳当時の家の経済状態] の %	54.1%	45.9%	100.0%
	ふつう	度数	102	90	192
	q11[18歳当時の家の経済状態] の %	53.1%	46.9%	100.0%	
	やや貧しい	度数	24	22	46
	q11[18歳当時の家の経済状態] の %	52.2%	47.8%	100.0%	
	貧しい	度数	5	5	10
	q11[18歳当時の家の経済状態] の %	50.0%	50.0%	100.0%	
合計		度数	209	183	392
		q11[18歳当時の家の経済状態] の %	53.3%	46.7%	100.0%

p=.998

q6[入試の種類] と q11[18歳当時の家の経済状態] のクロス表

		q11[18歳当時の家の経済状態]					合計
		豊か	やや豊か	ふつう	やや貧しい	貧しい	
q6[入試の種類]	一般入試・センター利用入試	11	77	148	37	8	281
		3.9%	27.4%	52.7%	13.2%	2.8%	100.0%
	推薦入試・AO入試	4	12	14	2	2	34
		11.8%	35.3%	41.2%	5.9%	5.9%	100.0%
	内部校推薦	7	32	25	3	0	67
	10.4%	47.8%	37.3%	4.5%	.0%	100.0%	
合計		22	121	187	42	10	382
		5.8%	31.7%	49.0%	11.0%	2.6%	100.0%

p<.01

以上より、学生は家の経済状況ではなく実家の立地場所によって自宅通いか下宿かを決定しているのではないだろうか。また、経済状況が悪かったとしても奨学金制度が充実していて下宿しやすい環境が整っていることと、アルバイトで生計を立てている人がいるためではないかと考える。したがって「貧しい」から下宿ができないということは無い。

2.5 大学生生活の充実度には影響しているのか

今までは自宅通いか下宿かを決める要因について分析してきたが、最後に自宅通いか下宿かによって学生生活が充実していたかどうかを分析していく。

q18[自宅・下宿の別] と q30[学生生活充実] のクロス表

		q30[学生生活充実]				合計	
		充実していた	どちらかといえば充実していた	どちらともいえない	どちらかといえば充実していなかった	充実していなかった	
q18[自	自	122	60	19	6	2	209
宅・下	宅	58.4%	28.7%	9.1%	2.9%	1.0%	100.0%
宿の	下	101	58	19	3	2	183
別	宿	55.2%	31.7%	10.4%	1.6%	1.1%	100.0%
合計		223	118	38	9	4	392
		56.9%	30.1%	9.7%	2.3%	1.0%	100.0%

p=.863

このクロス集計をみると、自宅・下宿ともに「充実していた」「どちらかといえば充実していた」と答えた人はあわせて90%近くにのぼり、全体的に見ても差はほとんどなかった。

また、もう一つ「大学を選びなおせたら、もう一度本学に入学しますか。」という大学への愛着度の質問項目についても分析をおこなった。(217 ページの上の表を参照。) このクロス集計表を見ると、自宅生は下宿生よりも「入学する」が少し高く、また下宿生の「どちらともいえない」が自宅生よりも高いことが分かる。したがって、自宅か下宿かによって、やや愛着度に差が出ることになる。

それでは、なぜ下宿生のほうが自宅生よりも「入学したい」割合が低いのかを考えたとき、大学志望度が関係しているのではないかと考えた。そこで、大学志望度をプラスして分析してみた。(217 ページの下の表を参照。)

このクロス集計表を見てみると、自宅生・下宿生ともに第一志望であれば「入学する」「たぶん入学する」割合はあわせて80%を超えていて、また自宅生の第一志望以外であっても充実度は70.8%であり、自宅生は、大学志望度と大学への愛着度との相関はそれほどなかった。しかし、下宿生に限って見てみると、第一志望

では「入学する」「たぶん入学する」が 81.9%であるが、第一志望以外では 58.0%とほかに比べてかなり低かった。そのかわり、「どちらともいえない」が 29.5%と多くなった。

q18[自宅・下宿の別] と q31[大学の選択] のクロス表

		q31[大学の選択]					合計
		たぶん入学する	どちらともいえない	たぶん入学しない	入学しない		
q18[自宅・下宿の別]	自宅	108 51.7%	59 28.2%	27 12.9%	10 4.8%	5 2.4%	209 100.0%
	下宿	73 39.7%	57 31.0%	40 21.7%	8 4.3%	6 3.3%	184 100.0%
合計		181 46.1%	116 29.5%	67 17.0%	18 4.6%	11 2.8%	393 100.0%

p=.089

q4[志望順位] と q31[大学の選択] と q18[自宅・下宿の別] のクロス表

q18[自宅・下宿の別]		q31[大学の選択]					合計
		たぶん入学する	どちらともいえない	たぶん入学しない	入学しない		
自宅 q4[志望順位]	第一志望	88 62.4%	30 21.3%	16 11.3%	4 2.8%	3 2.1%	141 100.0%
	第一志望以外	18 27.7%	28 43.1%	11 16.9%	6 9.2%	2 3.1%	65 100.0%
	合計	106 51.5%	58 28.2%	27 13.1%	10 4.9%	5 2.4%	206 100.0%
下宿 q4[志望順位]	第一志望	52 55.3%	25 26.6%	14 14.9%	2 2.1%	1 1.1%	94 100.0%
	第一志望以外	20 22.7%	31 35.2%	26 29.5%	6 6.8%	5 5.7%	88 100.0%
	合計	72 39.6%	56 30.8%	40 22.0%	8 4.4%	6 3.3%	182 100.0%

p<.001

以上から、自宅通いか下宿かによって学生生活が充実しているかどうかは、あまり相関がなかったが、大学への愛着度においての下宿生の割合は志望度によって違いが出るのが分かった。下宿生でかつ第一志望以外の学生の大学の愛着度が他よりも低いのは、もともと自宅から通える範囲で第一志望を選んでいて、落ちてしまったために京都にある同志社大学を受け、下宿をせざるをえなくなってしまったからではないだろうか。

2.6 まとめ

自宅通いか下宿かを決定する一番大きな要因は、自分の家から通学できる範囲かどうかであった。大阪府や兵庫県に実家があっても、京都にある同志社大学まで通学出来ない人は下宿する人も多く見られた。そして、今回の分析で内部生が大きく関係していることが興味深かった。2.2 節の分析で、内部生は圧倒的に自宅通いが多く、全体の結果に大きく影響していた。2.3 節の志望度の分析でも同様である。

また、家の経済状況は自宅通いか下宿かに関係していないことは想定外であった。私のイメージでは、貧しいと私立大学に行かせるお金がないため下宿生は経済的に「豊か」な人が多いのかと思ったが、そうではなかった。大学生活の充実度や大学への愛着度は自宅通いか下宿かによってはそれほど関係がなかった。

最後に、自分の思ったような分析が出ないことも多々あり、苦勞する点が多かった。高校時代に関する質問項目や大学選びに関する質問項目がもっとあれば、さらに自宅通いか下宿かに関する深い分析が出来たのではないかと思う。あまり PASW の知識がない上での分析だったので、思ったより自分の満足するレポートが出来なかったと思う。これから卒業論文に向けても PASW の基本が出来るようになっておきたい。